〈史料紹介〉

身延山歴代略譜

凡例

○本譜は身延開山宗祖日蓮聖人より七十七世日厳上人の入山に至るまでの前後六百数十年間に及ぶ身延歴世の事蹟を略記したものである。身延山が度々の火災等によって多くの史料を失ってしまった現在、身延の歴史を尋ねるのに残された貴重な史料の一つである。かつて開闢六百五十年を記念して刊行された『身延山史』も本譜に拠るところが多い。

○本譜は妙了寺四十三世真乗院日如の筆で『身延山略譜全』と表題された一冊本の最初から全体の約七割、墨付七十七丁を費して記されており、残りは「身延山由緒」「仝追加」「西谷檀林善学院歴譜」「久遠寺本末寺院調書」「久遠寺明細取調書」等からなる。今回は十四丁までを翻刻した。

○翻刻にあたって、次のようにした。

・頁と丁の終りにあたる部分は『』により示した。

・行の終りにあたる部分は「」により示した。但し註はこれをしない。

・丁付を示す数字と、その丁の表をオ、裏をウとして上に示した。

・漢字は通行のものに直した。人名・寺名で旧字を用いたものは、そのままとした。

・異体・古体・異体文字は通行のものに直した。但し「才」「叀」はそのままとした。

・宛字・誤字はその部分に（ママ）とし、送り仮名も通行でないものに（ママ）と付した。

・訂正文字は、訂正後を生かした。訂正前のものを註に『「　」を「　」と訂正』として示した。

・各歴世の終りに「註」としてかかげたものは、頭註・本文の中、或いは貼付されている書入れであるが本文中の該当個所、又は近い個所を以て(1)(2)等を以て示した。但し例外として便宜上本文中に示した場合は、本文中の該当個所初めの右側に（朱字）として示した。頭註・貼付のみその旨を最末に示した。

（北沢光昭）

（1オ）

身延山歴代略譜

開山宗祖日蓮大菩薩

人皇(1)八十五代後堀河天皇御宇貞応元年壬午二月十六日房州小湊ニテ限誕ス幼名薬王丸

天福元癸巳年十二才登清澄寺

延応元己亥年十八才剃髪字蓮長号是生房

建長五癸丑年三十二才(2)四月廿八日建立宗旨

文応元庚申年三十九才立正安国論御著作鎌倉執権進時頼

弘長元辛酉年四十才五月十二日伊豆之伊東ニ左遷

全三癸亥年二月廿二日全所ヨリ赦免

文永元甲子年四十三才十一月十一日房州小松原横難

全八辛未年五十才九月十二日相州竜之口法難ナリ

全十月十日佐渡ニ左遷

全十癸酉年五十二才九月八日於佐渡国始奉図曼荼羅（此本尊身延ニ有リ之）

全十一甲戌年五十三才二月十四日赦免全三月十三日出佐渡嶋全月廿六日入鎌倉

全年五月十二日出立鎌倉全十七日入南部之郷

（1ウ）

（2オ）

全六月十七日於身延沢始結草庵是則

宗祖之興起御書曰　去文永十一年六月十七日にこの山のなかにきをうち きりてかりそめに庵しつをつくりて候しかやう やく四年かほとはしらくちかきかへをち候へともなをす事なくて よるひをともさねとも月のひかりにて聖教をよゝまいらせわれと御経 をまきまいらせ候ねとも風をのつからふきかへしまいらせ候しか今年 ハ十二のはしら四方にかふへをなけ四方のかへハ一そにたうれぬうたい たもちかたけれハ月ハすめあめハとゝまれとはけゝ候つるほとに人夫 なくしてかくしやうともをせめ食なくしてゆきをもちて命をたす けて候ところにさきにうへのとのよりいも二たこれ一たハたまにも すき云云有リ実

人皇(3)九十代後宇多天皇御宇身延山久遠寺開闢也　自是九ヶ年間在山妙経御読誦之(4)棲神法窟也

弘安五壬午年九月八日出身延山全十八日到池上　全十月十三日辰之刻御寿六十一歳而御入滅也奉火　葬御全真骨依遺命収蔵当山永止　心神故天之霊山地之寂光宝刹而唱一宗門之源称憍本山奉号妙法華院深　可信厚可仰也矣

宗祖在世ノ王代 幷ニ 年号改元〕

後堀河天皇　貞応二 元仁一 嘉禄二 安貞二 寛喜三〕貞永一〕

四条天皇　天福一 文暦一 嘉禎三 暦仁一 延応一〕仁治三〕

後嵯峨天皇　寛元四〕

後深艸天皇　宝治二 建長七 康元一 正嘉二 正元一〕

亀山天皇　文応一 弘長三（5）文永十一〕

後宇多天皇　建治三（6）弘安十（7）〕

已上 六帝改元廿三〕

（8）

〔註〕

（1）イ（八十）七（代）

（2）或三月廿八日ニ

（3）或九十二代又タハ九十一代亀山ニ

（4）「栖神法屈」を「棲神法窟」と訂正

（5）「永文」→を「文永」と訂正

（6）建治三年七面天現ズト〈頭註〉

（7）此五年ニ入寂

（8）日宗新報ニ池上ノ後裔云云転載セシ故ニ池上幸操氏ヨリ訂正ヲ申込タリ

明治廿九年一月十日発行ノ教友雑誌二百四拾六号

内外彙報ニアリ〈以上朱字・以下墨字〉

抑モ当家祖先池上右衛門太夫宗仲ハ高祖日蓮大士ニ篤ク帰依セシヨリ弘安五年菊月ノ頃日蓮聖人身延山ヨリ宗仲カ館ニ来臨シテ余ハ足下ノ邸宅ニ於テ入滅センガ為メ来レリト曰フ予テ所望セラレシ祖先所有ノ山林数十町歩ヲ寄附シ（池上本門寺境内）寺地トナシタリ仝年十月十三日当家ニ於テ御入滅アラセ玉フ宗仲ヨリ十六代ノ間郷士ニテ武州荏原郡池上村（大坊本行寺）旧宅ニ住居シ其後海中ヲ開墾ノ為メ武州橘樹郡大師河原村〈移転シ爾来池上新田ニ累代居住シ他ニ本住居ヲ転セシ事ナシ

池上本門寺トハ祖先宗仲以来縁由浅カラズ同寺ハ当家ノ開基也故ニ交誼親クシテ異状更ニナシ

池上宗仲家ノ純然タル血統ハ依然トシテ池上新田ニ於テ累代相続シ来ルヲ以テ旧地池上村近傍ヘ宗仲家ヲ復古セシムル必要ナキガ為メ嘗テ有志ノ賛助ヲ乞フノ計画セシ事ナシ

神奈川県橘樹郡大師河原村池上新田

百七十六番地居住

池上右衛門太夫宗仲廿八世孫

池上幸操 印

（3オ）

二祖（1）佐渡阿闍梨日向上人（2）」

民部公号三安立院一　六老僧第四」

弘安五壬午歳（3）在位三十三年入山年限未詳已下明月無之三十三世学師ノ旧記如之」

正和三甲寅年九月三日六十二才化滅」（4）

上総藻原妙光寺新曽妙顕寺身延樋沢房池上ノ」喜多院各開山藻原須田ト云処ニ御廟有之ト」

御本国房州宗祖御同国ト見ヘタリ仍テ報恩抄御使ト見ヘタリ」彼ノ御書ノ送状之趣可拝見云云○当山住職之事弘安六年」正月日六老僧加判御番帳如二別紙一然ルニ其後巡番シカシカト」マシマサズアリケレバ仍別一人住持ヲ被二定申一之時大檀越以二」波木井実長（5）法号日円御義一向師令二住持一玉フト見ヘタリ」大檀那（6）ノ仰セ無レ拠叉ナレハ任二其意一御請被レ成給ナラン』

〔註〕

（1）弘安六年ヨリ正応元年マテ五年間六老僧輪次守塔

波木井日円ノ応請ニ依テ第二祖ニ進山スト〈頭註〉

（2）建長五年房州男金村ニ生ル聖祖ト肉縁アリト伝フ

又下サ八幡郡曽谷宇右衛門大夫改清ノ男大野法蓮入道ノ嫡男ト

（3）弘安八年推レサテ住持トナルト

（4）（六十）三（歳）モ

（5）法寂院日円聖人、身延地主波木井実長、永仁五丁酉年九月廿五日七十六才化〈頭註〉

（6）富士日興上人書　此ノ書（ニ）ヨレハ些モ波木井氏ニ嘲ム所ナキモノヽ如シ彼ノ門流延山ヲ無間山地獄谷ト罵ルハ何ンソヤ此書延山宝蔵ニアリト、日興退出ハ仝年十二月五日也ト、仝正応二年住二房州一保田一

一閻浮提之内ニ日本国日本国之内甲斐国甲斐之国之中ニ波木井郷ハ久遠実成之釈迦如来ノ金剛宝座也天魔波旬モ不レ可レ悩上行ササ日蓮上人之御霊窟怨霊悪霊モナタムベシ天照太神之御子孫之中一切皆念仏ヲ申シテ背クハ不孝也適々入道一人法花経ヲ如説ニ信シ進セテ候ハイカデカ孝養之御子孫ニ不候所法花経此所ヨリ弘ラセ給ベキ源也ト御所作ト申事ニハ候ヘシ仏上行無辺行浄行安立ノ脇士ヲ造製リ進セテ久成ノ釈迦ニ造立シ進セ給ベシ又安国論ノ趣ト違ヒマイラセ給ベカラス惣シテ久遠寺之院主学頭ハ未来マデ御計ニテ候ベシ

正応元年戊子十一月日　　使者上野公

〈貼附〉

（3ウ）

三祖（1）大進阿闍梨日進上人」
三位公ト云フ始ハ日真也後進ト改高祖直弟也」
正和三甲寅年入山　在位十七年」（2）
子院竹之房三世駿州柚野正法寺開山ヨリ入山ト有之」旧記ニ進善ノ両師ハ竹之房ヨリ直ニ入ルトニ方丈ニ有之」
別頭仏祖統記ニハ建武元甲戌十二月八日七十六才化ト有之元徳二年ト建武元年トハ」五ヶ年ノ相違也依テ身延山石廟ヲ証意トス」
御在世ハ西谷十間四面之御房ナリ本堂以下諸堂大旨ハ進」尊御代」
二王堂（3）ハ六ツ浦妙法聖人（4）建立之中山ノ檀那ナリ」
鐘楼ハ市川ノ檀那建立ト云フ」
元徳二庚午年十二月八日七十六才入寂』

〔註〕
（1）下サ曾谷教信之子ト或ハ久本房日元ノ子ヒ〈頭註〉
（2）或ハ十八年ヒ
（3）二王尊ノ由来ハ十三世日伝上人代ノ叟ナリ別頭統記十四巻ニアリ六浦光善ハ文和二癸巳年六月十三日死ス年限ハ日伝上人ト大ニ違ヒアリ不思議ノ人ナリ〈頭註〉
（4）六浦平次郎入道光善ト中山日祐上人ノ弟子相州六浦妙法寺ノ祖観応二辛卯年六月十三日寂

（4オ）

四世（1）大法阿闍梨日善上人」
号ニ大進公ト宗祖直弟ニ而進尊ノ肉弟也ト」
元徳二庚午年子院竹之房主ヨリ直ニ入ルトニ方丈ニ在位」三ヶ年」
仏祖統記ニハ貞和二丙戌年十二月廿二日七十六才化ト有之正慶元年ト貞和二年トハ」十五ヶ年ノ違アリ延山ノ石廟ヲ證トス」
当山古書ニ云元弘元年辛未九月廿二日入寂在位午未両年ナリ」御会式（2）ニハ一季モ遭遇シ玉ワズト進善両師ハ一姓也ト」
此書ニテハ入山ハ一ヶ年ノ違ナリ在位モ一ヶ年ノ違アルナリ」
正慶元壬申歳（3）九月廿二日七十才入寂』

〔註〕
（1）九老第五日善上人ハ北条義澄ノ嫡孫浜名次郎光成ノ長男也或ハ阿部文元ノ子ヒ
身延四世相州小田原妙珍山蓮昌寺三世安中大法寺

開碑文谷法華寺ノ二世元享中上洛日像ノ化ヲ補ケ（頭註・朱字）（朗師ノ弟子ナリ）宝国寺ニ居ス碑文谷ヘ還テ元弘二壬申九月廿二日寂ス（朱字）トアリ〈貼附〉正慶元

（2）元弘元未年大士五十遠忌〈頭註〉

（3）貞和二丙午年

（4ウ）

五世鏡圓阿闍梨日臺上人　字鏡圓」

波木井三代信濃守長氏ノ子童名春乙丸号ニ宮内卿ト」

正慶元壬申年入山　在位三十五年」

童名春乙丸ノトキ従ニ善上ニ受ニ譲状一　此譲状土蔵ニ有之」

又号ニ宮内卿ト波木井第三代信濃守長氏法名日長ノ」子ニシテ第四代伊豆守実氏法名日遠ノ舎弟也ト」

杉之房并梅平村鏡円坊中興開基」

西谷ノ塔頭ヨリ今此霊地ニ願レ奉レ移ニ諸堂ニ」（1）

臺師ノ夢之記アリ」

尚又春乙丸ノ時キ善上ヨリ受ニ附属ニ叡山ニ住学九年」其間ハ西林院日賢管ニ領当山ニ」

貞治五丙午年三月七日四十六才入寂」

（5オ）

臺上ハ両親ヨリ先キ立遷化ナリ』

右向進善臺ノ四師住世年代未レ詳亨師ノ因ニ旧記ニ如之」

〔註〕

（1）此ノ諸堂トハ如何ナル堂ヲ移転スル歟

六世実教阿闍梨日院上人」

梅平村之産也三祖進師剃髪ノ弟子也号ニ民部卿ト」

志摩房二世ニシテ臺上ニ随侍メ請レ嘱入ニ方丈ニ」

貞治五丙午年入山　在位八年」

波木井信濃守長氏法名日長ヨリノ古書アリ貞治五年丙午」四月廿八日沙弥日長書判身延山久遠寺別当民部卿」日院ニ奉事身延山ノ別当式ハ民部卿日院相ゾクノ仁ト」シテ相ツグ所ナリ」

応安六癸丑年六月廿五日六十二才入寂』

（5ウ）

七世上行院日叡上人」

三世進師ノ弟子（或ハ法弟トモ俗弟トモアリ）院師ハ兄叡師ハ弟ナリト」

応安六癸丑年（1）入山　在位廿八年」

池上五比企谷五身延ト三山兼職（2）」

応永七 庚辰 年五月七日八十三才入寂」

〔註〕

(1) 大士百年忌〈頭註〉

(2) 弘和永徳之元年也又宇都宮妙勝寺管セリ

(6オ)

八世行學院日億上人」

叙上ノ弟子」

応永七 庚辰 年入山　　在位廿三年」

此御代最初迄ハ身延池上比企谷三山ノ住持職ヲ兼玉フ其後」比企谷ヨリ別ノ住持懇望被申間先御舎弟(1)延命院」日行(2)ヲ御代官トシテ鎌倉ヘ下シ玉(3)ヘリ」

日億上人ノ弟子ニ行学ノ二字ヲ以テ(4)兄ヲハ号ニ日行」ト弟ヲハ号ニ日学」ト」

応永廿九 壬寅 年十一月八日　　才入寂」

〔註〕

(1) (御舎弟)ト法弟カ

(2) 両山六世延命院日行上人ハ永享六年化スト

(3) (玉ヘリ)ト弟子カ

(4) (日行 日学)ト

(6ウ)

九世成就院日學上人」

叙上ノ弟子億師ノ俗弟(1)ナリ」

京都学養寺開基　今ノ妙伝寺地内妙釈院是ナリ」(2)

応永廿九 壬寅 年入山　　在位三十八年」

長禄三 己卯 年(3)十二月七日　　才入寂」

〔註〕

(1) (俗弟ナリ)ト

(2) (是ナリ)ト

(3) 永享三亥年大士百五十年

(7オ)

十世観行院日延上人」

億師ノ弟子　初ハ号ニ成就院ト」

學師ヨリ授与之本尊ニハ成就院日延法師トアリ」

上洛シテ如ニ宗祖ノ訴ニ公処ニ」

長禄三 己卯 年入山　　在位三年」

長禄三ヨリ寛正三 壬午 ニ至ル迄四ヶ年ナリトアリ

古書ニ一ヶ年ノ違在位モ一ヶ年違アリ」

寛正二 辛巳 年四月廿六日六十八才入寂」

十一世(1)行學院日朝上人」

（7ウ）

字鏡澄（2）号ニ加賀阿闍梨ト一」
父朝善尊霊　母妙秀尊霊
（3）応永廿九壬寅二月十四日
文明五癸巳六月十六日

師範ハ一乗院日出上人長禄三己卯四月九日化ス」

右日出上人ハ当山日延上人ノ俗弟也初ハ武州仙波檀林ノ化主ナリ後ニ削ニ仙』波一更レ衣三嶋鎌倉両本覚寺ヲ開基ス」

寛正二辛巳年入山　在位四十年」

文明六甲午年鷹取山ノ麓西谷ノ水上ニ浄界（ママ）ヨリ諸堂并」方丈ヲ現今ノ地エ引移ス入山ヨリ十四年目也」当山開闢ヨリ二百一ケ年ニ当ル」

二重宝塔（4）（5）二間四方建立　柱立ハ文明六甲午八月十日本尊入塔ハ仝十戊戌三月十六日ナリ　勧化帳ノ」序文ハ今ニ有ニ宝蔵一文明二年十一月日」（6）

利女堂三間四方外エン建立（7）柱立棟札有之明応三甲寅七月日」

祖師堂ノ過去帳三十冊ハ第十一世日朝ノ筆」

子院孫舎民居村落ス　諸国参詣ノ宿坊ヲ割定之」

町中ノ家鋪割ヲ定メ与レ之　山内ノ清規末寺ノ制規定レ之」年中ノ行事法会楽律等定レ之　児ノ舞十二番ヲ」比叡山ヨリ写レ之舞台ヲ造立メ置ニ之衆器一

年暦不詳在位四十年ノ間ニ定レ之」

（8オ）

鎌倉本覚寺（8）ヘ宗祖（9）ノ分ニ真骨一称ニ東身延山一』

駿州ニ向師開基ノ滝泉寺アリ破壊セリ再興シテ為ニ中興一祖一今ノ感應寺ナリ静岡ナリ　師ノ生処伊豆国那賀郡宇佐美」ノ郷後ニ為レ寺ト妙秀山朝善寺ト云フ開基ス甲州八代郡ニ徳」林山法成寺巨摩郡常栄山正行寺車田村體具山」法円寺成嶋村妙寿山仏乗寺信州伊奈郡山室ノ妙朝」山遠照寺相州海老名村長商山海源寺愛名村長愛」山妙昌寺栗原村長光山法泉寺串橋宝上山妙蔵」寺古沢村常栄山本照寺武州町田村久住山宏善」寺身延東谷覚林房各開基創立（10）也」

御退院（11）年限未詳覚林房ヘ閑居入滅ノ地ナリ御廟所モ仝房ニアリ」

行学秀逸著述甚多シ毎日行法ノ日記土蔵ニ有之片隈谷」於ニ覚林房一撰述ノ書多シ」

明応九庚申年六月廿五日七十九才入寂』

〔註〕

（1）応永廿九壬寅年ノ産ト

（2）叡山ヘ住学

（3）「妙善」を「朝善」と訂正
（4）文政七年火災焼失ス
（5）文明十三丑年高祖二百年忌〈頭註〉
（6）（文明二年十一月日）作ト見ヘタリ
（7）上ノ山ナル歟
（8）師範日出上人開基ノ寺ナリ
（9）文明九年分骨ト日出上人ノ永享問答記此寺ニアリト〈頭註〉
（10）（日出上人日朝上人之開山当国高橋常徳寺唐柏常在寺等ナリ〈頭註〉
（11）文明十二年ニ御退院ト、左スレハ二十一ケ年覚林坊御住居カ〈頭註〉

（8ウ）

十二世圓教院日意上人　字法鏡」
慈父　妙餘　十二月十七日死」
悲母
叡山ノ徒ニノ朝師入叡ノ学友ナリ朝尊延山ニ主タリシ時来テ」更レ衣名ヲ改ニ法鏡ト」
勢州桑名寿量寺全顕本寺西京ノ妙伝寺各開」
明応九庚申年（1）入山　在位二十年」
京妙伝寺ヘ宗祖分ニ舎利ヲ（2）称ス関西身延山ト」
児童鶴若丸（3）意師ノ代御頭根ニ永正十四年丑南延男」鶴若丸ト有之」

（9オ）

年フルル松ノ岩根ノ苔ムシテ
清キ流レノヲツル児水』
東谷隅之房西谷円教坊開基ス円教房ヘ閑居ス年限未詳」
永正十六己卯年二月三日　才入寂」
〔註〕
（1）文明十二年ノ進山カ〈頭註〉
（2）文明八年妙伝寺創立分骨スト〈頭註〉
（3）延山常稚児ノ初メ歟

（9ウ）

十三世寶聚院日伝上人　朝師ノ弟子」
慈父
悲母　妙恵尊霊　八月五日死」
永正十六己卯年（1）入山　在位二十五年」
天文十二癸卯年（2）退ニ院西谷麓坊ニ六ケ年」
武田信虎在世ナリ甲府信立寺開基麓房開此房奥ノ院麓ナル故ニ名ヲ此云フ」
祖師堂（3）十七間四方横各二間宛第十三世　日伝代建主或云ニ意伝両代ニ』
初ハ宝形家根ナリ廿四代要師元和七年八年諸国ヲ勧化ノ斬ヲ挙ケ」破風ヲ懸ケ以ニ檜皮一葺シト」

祖師之宮殿天文十四乙巳年(6)師造立之施主西ノ坊日祐大逆坊日守大工池上縫允正重」
此宮殿三十三世学師改造ノ時高座石ノ堂ヘ移ス」
稚児舞堂(4)三間四方外縁付六本柱也建立朝意伝三代ノ内」
天文十七戊申年十二月十一日六十七才麓坊ニテ入寂」

〔註〕
(1) 永正十一一年ノ進山カ〈頭註〉
(2) 享録(ママ)四卯年大士二百五十年〈頭註〉
(3) 焼失ス(年号未載)
(4) 文政七年火災焼失

(10オ)

十四世善學院日鏡上人　意師ノ弟子」(1)
御父　日悦尊霊　八日忌辰」
御母
天文十三甲辰年(2)入山ス』(3)在位十三年閑居三年合テ十六ケ年ト」
弘治二丙辰年西谷善學院創建ノ閑居ス所化ヲ集テ日ニ講ス」玄文止ヲ依テ檀林ノ開基(4)トス後チ廃絶ノ処遠師入山有テ」中興ス依テ遠師ヲ中興開祖トス」
谷法雲坊(5)ヲ開基シ不レ移其後法雲院道師中興開基ス」
八幡社鎮護国家之宝殿上葺成就永禄元戊午六月中旬錺師掠札有之」
永禄二己未年四月廿五日五十三才入寂」(6)

〔註〕
(1) 門人ト
(2) 天文七年ノ進山カ、三十二才ト〈頭註〉
(3) 三十八才ニテ、一ノ瀬妙了寺八世ヨリ
(4) 甲州篠原村法久寺、信州海津蓮乗寺各開祖ト
(5) 法雲坊の創建は西谷
(6) 在位十三年カ

(10ウ)

十五世(1)宝藏院日叙上人　傳師ノ弟子」
祖母　妙祐尊霊　二十五日
父　常円尊霊」→戊申(2)年八月八日』
母　妙俊尊霊　天文六丁酉年九月廿日
弘治二丙辰年(3)入山　在位廿一年」
定林房開基閑居入寂ノ地也御退院(4)年限不詳」
天正五丁丑年五月廿二日五十五入寂」

〔註〕
(1) 御書条箇二巻著作
(2) 「戊戌」を「戊申」と訂正
(3) 天文二十二年ノ進山カ三十一才ト〈頭註〉

（4）元亀三年ノ退院ト。〈頭註〉

（11オ）

十六世琳珖院日整上人　　叙師ノ弟子」

字琳光」

土蔵ニ叙師ヨリ天正二年琳珖坊日整ヘ授与之本尊有之』

元ト（ママ）厨子司ノ僧ナリ学徳アリ又当山ニ勲功有ル故ニ後ノ」貫首トナス叙師ノ記アリ一名庫裏和尚ト云フ」

天正五丁丑年（1）入山　　在位二年」

仝　六戊寅年八月廿日七十六才（2）入寂」

〔註〕

（1）元亀三年ノ進山カ、六十一才ト〈頭註〉

（2）六十七才遷化ト〈頭註〉

（11ウ）

十七世慈雲院日新上人　　鏡師ノ弟子」

字純慧　今諏訪村ノ産也」

御父
御母　妙栄尊儀　天正十二甲申年八月廿二日」

東京谷中慈雲山瑞輪寺信州松本本立寺仝廣福寺』

仝妙福寺雲州慈雲寺西谷南向坊右六ヶ寺開基ス」

南向坊ハ閑居ノ寺ナリ小室十七代（1）藻原山歴」

初メ傳師ニ事ヘ没後ニ鏡師ニ仕フ染雑ノ後藻原山ニ主タリ」

整師ノ嘱ヲ受テ進山ス在位十二年トアリ此記ニヨレハ三ヶ年」無住ナルカ不審ナリ考ルニ十五年ナルベシ瑞輪寺開山記等未詳」

天正六戊寅年入山　　在位十五年」

舞台葺更天正十一癸未年（2）八月廿六日書附有之第十七世新師代」

祖師廟堂同拝殿廊下建立棟札天正十三乙酉年十月吉日」

右八角堂建立ハ去年仲冬也料ハ従ニ大坊」材木少々助成」番匠ノ俵子悉奉加也」

徳川家康公ヨリ久遠寺條々ノ判物ヲ賜ル御朱印也」

天正十六年十一月十一日又タ（ママ）同十七年正月九日賜ニ判物ヲ会式」関之事也』

（12オ）

宗祖御霊骨ノ宝瓶ヲ造天正十八年庚寅九月日十七世日新代施主越中」東郡生綾越後府内住侶後藤兵庫藤原貞秀作」

天正二十文禄ト改元壬辰年八月十一日五十八才入寂」

〔註〕

（1）（小室十七代）『不審』とあり

（2）天正九巳年大士三百年〈頭註〉

十八世妙雲院日賢上人　新師ノ弟子」
字純性　伯州ノ産也」
文禄元壬辰年入山　在位八年」
大方丈（1）并唐門十一間十三間建立文禄第二癸未年十二月二十八日」
岐阜宰相殿於二高麗国一御他界　御母堂瑞龍院殿寄
附擬二」追善二客殿也』
本堂（2）十一間半四方縁各九尺建立主関白殿之母堂瑞龍院日秀」
尊尼（3）ノ施主也　按ニ慶長二丁丁酉年普請始歟」
天照八幡ノ社（4）九尺四方（5）拝殿五間三間外縁四方賢師棟札二枚有之慶
長三年」戊七月二日柱立至テ十三日ニ令ニ周備二了ンヌ
大檀越浅野右近」大輔忠吉建立之」
慶長四己亥年閏三月十三日四十一才入寂」

〔註〕

（1）文政七年火災ニ焼失ト
（2）当山文政七年ノ火災ニ焼失スト
（3）村雲御所并ニ東山善正寺ノ発起主カ
（4）今ハナシ、焼失ノ部ニモナシ
（5）「四尺」を「四方」と訂正

十九世（1）法雲院日道上人　新師ノ弟子賢師ノ法
弟』

（12ウ）

教蔵院日生上人ニ随テ禀レ学飯高二世ノ講主ナリ」
慶長四己亥年七月五日飯高（2）ヨリ入山在位三年」
本堂ノ棟札ニ云慶長四己亥八月廿五日本堂ハ日賢上
人（代（朱字）」建立ナリ）慶長四年己亥三月十三日遷化（ナレ（朱字）ハ道師ノ棟
札トナル）施主ハ瑞龍院日秀也三年ニテ」落成ス
賢師上茸未満遷化ス日道文月五日入院上茸成就」
ト略抄」
慶長六辛丑年閏十二月十二日四十才（3）入寂』

〔註〕

（1）日道上人ハ姓斉藤氏歟、甲州長沢村善国寺開基ニ
斉藤筑後守善国、法号ハ清涼院殿浄哲日心居士ノ
実兄ナリト、仝寺ニ善国ノ墓アリ
（2）飯高庠ヨリ晋山ノ始メナリ
（3）五十才化スト〈頭註〉

（13オ）

二十世一如院日重上人」
御父性凱　御母実教院妙勝　天正十二年八月廿一日　三月廿七日」
本満寺十一世日裔上人弟子ナリ本国寺ニテ剃髪ス」仝求法院桓林ノ開祖」
見聞愚案記　一名重記ト慶長廿年六十八才ノ作
ト」

（13ウ）

(14オ)

慶長七壬寅ノ春雖レ有二請待一堅辞而無二入山一以二乾遠両上人功一為二歴代一京広布山本満寺十二世ナリ」

重師本尊(1)三枚続キ有二宝蔵一 慶長七年壬寅九月十三日於二丹州一芹生山聖福寺玄修院一奉二書之一剃髪授戒弟子心性院一日遠授与之」

南無末法下種大導師日蓮大上人

南無日朗(2)日印(3)日静(4)日傳(5)聖人

南無日秀(6)日善(7)日燈(8)日通(9)日威(10)

日脩(11)(12)聖人』

元和九癸亥年閏八月六日七十五才入寂』

(14ウ)

〔註〕

(1) 但シ脇勧請下ノ方法嶮ノ先師ヲ認列ス

(2) 本国寺二世 (3) 同三 (4) 仝四

(5) 仝五世 (6) 本満寺開山 (7) 仝二

(8) 仝三 (9) 仝九 (10) 仝十 (11) 仝十一世

(12) (日脩聖人)ト

廿一世寂照院日乾上人 日重上人ノ門人」

越前国塚本氏ノ産也 字孝順」(1)

御父 善慈日行 四月廿七日

御母 日仁 元和三丁巳六月三十日

養母 妙玖日曜 寛永元甲子十一月九日」

幼年ノ師範日叙(2)和尚 元亀三壬申二月廿二日 若州長浜寺第八世」

京本満寺十三鷹ケ峰常照寺檀林開祖能勢清普寺」(3)美濃清水ノ覺林寺各開山貞松蓮永寺中興京妙覚」寺日奥(4)公儀ヨリ被仰下住歴ス」

慶長七壬寅年 入山(5)在位二ケ年重師ニ」代リテ進山ス翌八癸卯年退院(6)シテ帰京ス」

仝十四己酉年再入山 在位六ケ年ニシテ」

仝十九甲寅年退二院西谷檀林一(上ノ山ニ有二旧跡一云ヲ上ノ座ト)」

寛永十二乙亥年十月廿七日七十六才入寂』(7)

〔註〕

(1) 「堯順」を「孝順」と訂正

(2) (日)欽ヒ

(3) 妙見山、真如寺各開

(4) 不受不施異流ノ跡

(5) (乾師)四十三歳

(6) 後職遠師入山住五ケ年

(7) 本満寺ニテ化スト